

低学年 児童期の学習

～保護者のみなさまへ～



まだお子さんが中学受験の対策の勉強を始める年齢ではないけれども、今のうちに何をしておけばよいのかを思案しておられる保護者もおありでしょう。本コラムは、**低学年児童期に必要な学習**についてお伝えするために設けたものですが、**受験対策開始前に配慮しておくべきことは勉強だけではありません。**そこで今回はそれについてお伝えしようと思います。

勉強の取り組み具合は子どもによってそれぞれ違います。同じことをやっても、成果が上がるお子さんと上がらないお子さんがいます。それを「**能力の違い**」とみなす人もおられますが、小学生段階から能力を云々するのは早計に過ぎます。**取り組みの成果を支える要素は何かを考え、それを整えておくことで随分違ってきます。**たとえば次のようなことについて、何か意識してお子さんをサポートしておられますか？

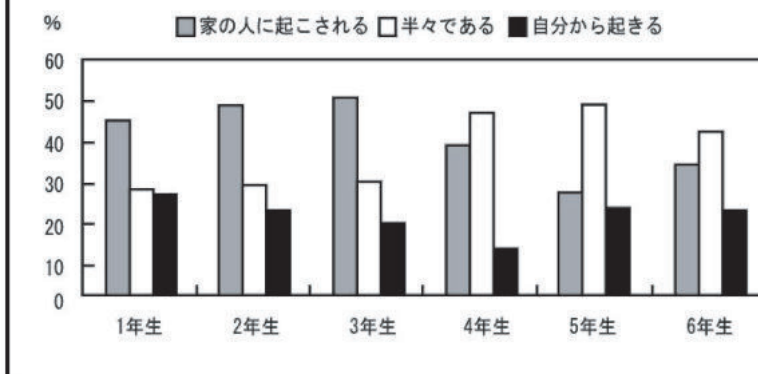
1. お子さんの基本的な生活習慣は自立しているでしょうか？

おたくのお子さんは、朝おかあさんに起こされなくても自分から起きていますか？一日の出発点から親がかりでは、何をすることも自立できません。右下の資料は、**子どもの朝の起床状況**を調べたものです。



これを見ると、どの学年も自分で起床している子どもの割合はそんなに変わらないことがわかります。これは、学年が上がるにつれて行動の自立度が高まるのではなく、**親頼みの生活をしている子どもはいつまでも自立できない**という現実を暗示しているのではないのでしょうか。逆に考えると、**早くから自分で起床している子どもは、ずっと変わりなく自分で起床している**のでしよう。

資料 朝の起床 自己決定の割合



※上記資料は、「小学三年生の心理」大日本図書によります。

起床に限りません。自分でできることは少しでも早くからやらせましょう。一事が万事。何をすることも自立している子どもは成果が得やすいものです。机の周りの整理整頓、学校に持っていくものの準備、着替え、食事の後の食器の片付け、洗濯物の取り込みなど、生活上自立しておくべきことがどれだけ自分でやれているか振り返ってみてください。

基本的な生活習慣の自立は、中高一貫校などでも大変重要視されています。勉強の積極性や取り組みの自己管理などに大きく影響するからでしょう。



2. お子さんが「これって何？」と興味をもったら、一緒に調べましょう！

子どもは飽きっぽいものです。せっかくお子さんが何かに興味をもっても、その先へといざなっていらないと直に興味を失ってしまいます。しかし、**興味の対象についてより深く知る体験**をすると話は違ってきます。「もっと知りたい！」と意欲を高め、探求心を増幅させていきます。



低学年児童をおもちのおうちには、図鑑や事典が何冊かあると思います。それらをもっと活用すべきではないでしょうか。お子さんが「これって何？」と興味を示したとき、すかさず「一緒に調べてみよう！」と応じてやりましょう。そして、手持ちの図鑑などをめくってみるのです。「もっと詳しく知りたい！」とお子さんの興味が発展したなら、一緒に図書館に行って調べたり、可能なら本物がある場所に出かけてみたりするのもよいですね。



このような体験をたっぷりとした子どもは、知的欲求を満足するための努力を怠りません。わかるまで、納得するまで、探索活動を続けようとしています。中学受験のために学ぶ事柄のなかにも、子どもの知的興味を満足させる要素がたっぷりとあります。親としては、わが子が**勉強のなかにある面白さを満喫し、熱心に取り組む**ことを期待したいものです。そういう子どもになるための助走として、上記のようなフォローをしっかりとあげていただきたいですね。



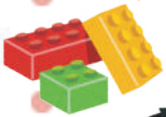
3. 頭を使う楽しさを味わえる遊びをいろいろとやってみましょう！

おたくでは、**頭を使って競うゲーム**などを**親子で**楽しんでおられますか？ ああいった遊びは子どもの頭の鍛錬になりますし、頭を使ってものごとを解決することを志向する人間へと成長させてくれます。親子団らんのときには、積極的にそういった遊びを試みてはいかがでしょうか。

家族全員でやりとりする遊びは、たくさんの**会話**を伴いますから、**電子ゲームなどとは全く違う楽しさが伴いますし、心に栄養を与えてくれる意味においても価値があります。**昔からあるしりとりなどの言葉遊びやトランプなどのカードゲームは今のお子さんも好きですが、最近では手の込んだ大がかりなゲームがいろいろとあります。そういったものを活用してもよいでしょう。



低学年期までの子どもの遊びのなかには、算数や数学などで求められる**センス**を磨いてくれるものが結構あります。**タングラム**や**レゴ**などは、小さなパーツをいろいろと組み合わせる体験を繰り返すことで、**図形単元**で求められる**感覚的素養**を磨いてくれます。これは親に強いられてやる勉強と異なり、子どもにとって**無条件に楽しい**ものです。大好きなお子さんが多いのも無理ありませんね。



理系分野に長けた人物に、「**子どもの頃、何をしていましたか？**」と尋ねると、「**一日中、ひたすらレゴをやっていました**」という返事があったことを思い出しますが、同じような体験をした人は少なくないと思います。こういう遊びに夢中になっているとき、人間の脳は対象に集中して活発に働いています。それを延々と繰り返すのですから、脳の神経細胞がそういった遊びに呼応して成長するのは間違いありません。理系分野で活躍してくれる素養の多くは、**9歳前後までの体験で磨かれる**と言います。理系タイプ人間が男性に多いのは、素質的なものよりも、**幼少期での男女の遊びに対する志向性の違い**からくるものだという専門家の指摘もあります。形あるものに触れる遊びを、男子女子に関わらずやらせてみるのもよいかもしれませんね。



どうでしょう。参考になる点がいくらかあったでしょうか。勉強のできる子どもにするには、勉強だけに目を遣るのではなく、**生活習慣の自立**や**好奇心を満足させる体験**、**素養を磨く遊びの体験**など、いろいろとあります。今のうちにいろいろと試みてみてはいかがでしょうか。

